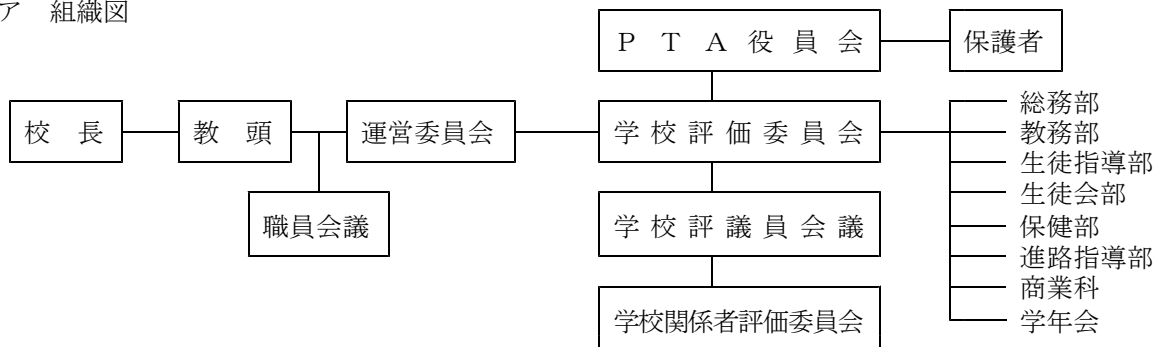


8 学校評価

(1) 学校評価のための組織 ア 組織図



(2) 学校評価の年間計画

実施時期	実施項目	具体的な実施内容	公表の方法
4月 ～ 6月	重点目標の設定	目標達成のための具体的な指導計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへの掲載 ・保護者への提示（P T A総会） ・第1回学校評議員会議及び学校関係者評価委員会の開催及び会議への提示
7月 ～ 8月	教員・学校評議員・学校関係者評価委員による中間評価	1学期の取組状況と改善策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへの掲載 ・保護者への提示（保護者会）
10月 ～ 12月	生徒・保護者・教員による中間評価	アンケートを実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへの掲載
1月 ～ 2月	教員・学校評議員・学校関係者評価委員による年度末評価	目標・計画に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回学校評議員会議及び学校関係者評価委員会の開催及び会議における取組の説明 ・学校評議員及び学校関係者委員による評価
3月	評価のまとめ	教育内容・活動の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへの掲載 ・校誌「ふきのと」への掲載

(3) 本年度の学校評価

本年度 重点目標	1 校訓の精神を重んじ、知・徳・体のバランスのとれた人材育成をめざす。 2 安心安全で生徒が主体的に伸び伸びと心身共に鍛えられる学校づくりをめざす。 3 地域社会の発展に貢献できる資質と態度を養い、より一層地域から信頼され必要とされる学校づくりをめざす。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	○学校行事における保護者と学校の連携、協力体制づくり ○P T Aの協力を得て、環境美化	1 P T A・職員の役割を明確にし、連絡を行う。 2 P T Aと学校の協力による環境美化活動を実施する。	1 昨年度の反省を踏まえ、P T Aと職員と事前に打ち合わせを行い、行事を計画する。 2 P T Aと学校が協力し、環境美化に努める。
教務部	○学習に集中できる環境をつくる ○新教育課程に関する指導法の研究の推進 ○図書館の積極的な活用	1 教務部講話等、日頃から機会を捉えて学習意欲を喚起する。年間を通して、学習に集中できる雰囲気をつくりだす。また、教務カード、不要物品の指導を確実にし、授業規律の確立に努める。 2 新教育課程に関するこれまでの指導について検証し、今後の具体的な指導方法を研究し実施する。 3 「図書館だより」「新刊案内」等を積極的に発行する。	1 「頑張ること・学ぶこと」に自信と意欲が持てるように学習環境を整える。教務部として学校全体の意欲向上の雰囲気をつくりだす。また、教務カード、不要物品の指導を確実にし、授業規律の確立に努める。 2 各教科において、新教育課程のうち、2・3年における設定科目の教材開発、シラバスの作成等をさらに推進する。 3 図書館の活用について、図書委員を通じて各クラスに情報を伝達する。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣の確立 ○集団における規律の遵守、安全・安心な学校生活 ○交通安全指導を含む公共の場におけるのモラル・マナーの向上 	<ol style="list-style-type: none"> 1 8時35分教室入室を呼びかけ、40分ST開始(チャイム鳴り始め)を徹底する。 2 学年団を中心に、頭髪・身だしなみ指導を継続的に行う。 始業時・終業時のしっかりとした挨拶、入退室のマナー指導を徹底する。 情報モラル向上を目指し、使用マナー指導を機会あるごとに行う。 不審者情報を教室掲示・緊急連絡メール配信し、注意を喚起する。 3 登校時の交通安全指導・交通安全指導LTの継続、自転車通学者への注意喚起を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 増加した遅刻指数を0.3以下に減らす。 2 全職員による生徒指導の体制を維持する。清楚な身だしなみ、情報モラルの向上を図る。 3 交通安全指導を効果的に行うとともに、公共の場でのモラル向上を図る。
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> ○自主性を育てる学校行事運営 ○部活動を応援できる環境づくり ○委員会活動のより一層の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校行事に対し、生徒が主体的に活動できる環境をつくる。 2 部活動の広報を定期的に行い、学校全体で部活動を応援できる体制をつくる。 3 執行部による企画運営に早めに着手し、各種委員会と協力し、定期的な情報発信を通して、生徒への意識づけを行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学年会・分掌・生徒代表との連携を密にし、全校で学校行事をつくり上げる意識を大切にする。 2 試合予定・結果の広報(表彰を含む)を部顧問の協力を得て、確実に行う。また、定期的に活動参加状況の良好でない生徒に対して、丁寧な指導を行い、転部も含めた活動の定着を図る。 3 執行部と各種委員会で協力しながら、全校で学校生活に携わり、運営しているという意識を身に付けさせる。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ○歯科検診の結果を踏まえた生徒の健康管理 ○教室の環境衛生の充実 ○清掃活動の充実 ○特別支援教育への取組 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒に歯科検診の結果を意識させ、啓発活動を引き続き行う。 2 常に換気を啓発し衛生状態を整え、集中力の持続性を高めるとともに感染症を減らす。 3 ワックス掛けを行なう場所を増やす。 4 学年と連携を図り、個別に支援が必要な生徒を把握する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 特に歯の多い生徒に予防の具体的方法を啓発する。 2 昨年の環境衛生検査・二酸化炭素濃度は、灯油ストーブ使用教室では適正値を超えた。換気を適正に行わせる。 3 昨年度は3年HRのワックス掛けを実施したので、本年度は特別教室を中心に実施する。 4 スクールカウンセラー・特別支援コーディネーターの協力を受け、学年と連携を図りながら、個別支援へつなげていく。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○段階的・具体的指導のための進路行事への再構築 ○開かれた進路指導室 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ①進路調査、②一斉指導、③面談指導、④進路ガイダンスの手順でマッチングを図る。 2 校内指導を2年前半までに、外部ガイダンスを2年後半以降に集中させ、より段階的な行事に組み直す。 3 コミュニケーション能力、基礎学力など必要な力を身に付けさせる具体的な指導を学年団と協力して行う。 4 進路資料等の整理整頓を行い、教員・生徒が調べやすい環境を整える。 5 迅速な情報収集と提供を行う(進路希望、検査結果、指定校一覧等)。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 マッチング工程は2・3年次の2回実施することで精度を上げる。 2 生徒の進路意識が高まる時期に進路行事が重なるように心がける。 3 具体的な指導を行い、生徒の成長を教員自身が確認できるようにする。 4 企業及び進学先のパンフレットが1社あるいは1校ごとファイリングする。 5 必要最小限の情報のみを収集することで手間と時間を節約する。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総合 ビジネス科	○キャリア教育の一層の充実と ビジネスコミュニケーション 能力指導の確立、及び継続実 施するための校内・校外の環 境整備を図る。	1 事前・事後指導を充実するこ とでインターンシップのさらなる 充実を目指す。 2 インターンシップや関連科目 を通し、ビジネスコミュニケー ション能力の向上を図る。	1 インターンシップの充実により、 ビジネススキルの定着と一層の自 己啓発を目指し、自己実現に資す る内容とする。 2 インターンシップや地域連携等、 実践を通してコミュニケーション 能力を身に付ける。
情 報 科	○情報科にふさわしい知識と技 能および情報モラルを身に付 ける。	1 国家試験・検定試験を積極的 に受験する。 2 多くの作品作りを通し、情報 技術を身に付けると同時に、コ ミュニケーション能力の向上を 図る。 3 情報化社会の一員としての自 覚を持たせる。	1 IT 技術の動向をとらえ、時代に 即した知識の習得と作品制作を行 う。 2 高大連携、地域連携等を通して、 実践力を身に付ける。
1 年 学 年 会	○挨拶の励行 ○基本的生活習慣の確立 ○学校生活における目標の設定	1 挨拶励行の徹底 2 素直に話を聞く姿勢・態度を 育成する。 3 身だしなみ指導・環境整備・入 退室マナーなど基本的生活習慣 を確立するよう指導する。 4 進路実現のため基礎学力の定 着を図る。商業科目に適応させ 検定資格の基本級を習得させ るとともに、成績優秀者により高 い意識付けを図る。 5 部活動の継続を奨励する。 6 年間皆勤150名以上を目指す。	1 挨拶励行については、教室内外 を問わずに徹底させる。 2 朝会、合同LT、STなど話を 聞く姿勢・態度を育成する。 3 きちんとした身だしなみの大切 さを理解させる。 4 学習不振者については、苦手科 目を作らせないよう学習会の実施 など、対策を講じる。 5 部活動への不参加が続く前に担 任が把握する。 6 担任は生徒の健康管理と精神的 安定を日頃から注視する。
2 年 学 年 会	○豊かな人間性を培う ○自主自律の心を持ち、より高 い目標に向けて取り組む	1 心身を鍛え人格の陶冶に努め るとともに常に道徳心を磨く。 2 社会で活躍できる資質および 技能を身に付けるためより高い 目標を設定して努力する。 3 年間皆勤150名以上を目指す。	1 日々の学校生活で学業・部活動 に真摯に取り組む気風を作る。 学校行事、学年行事に積極的に 参加させ、旺盛な活力を育成する。 2 社会に出ることを見据え、実践 に重きを置く。各教科と連携して 基礎学力の向上を図る。各種検定 の取得にも力を入れる。また、進 路実現に向けて情報提供を行うと ともに、早めに対策を立て実行さ せる。 3 担任は生徒の健康管理、精神的 安定を日頃から注視する。
3 年 学 年 会	○進路実現 ○基本的生活習慣の確立 ○向上心を持って、自己目標の 実現を目指す	1 生涯を見据えたキャリア教育 の充実を図る 2 進路実現に向けた指導・助言 を行う。 3 進路実現後も人間としての豊 かな自己の能力や個性を実現す る。 4 年間皆勤160名以上を目指す。	1 面接指導・作文指導など自己表 現能力を高める。 2 生涯を見据えた広い視野から進 路選択できるよう、面談を重ねる。 3 進路決定後もより高い目標を掲 げ、自己の能力を高める努力をす る。 4 担任は生徒の健康管理、精神的 安定を日頃から注視する。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え自ら学び自ら行動する力を持った人材の育成 ・実学教育を推進し、コミュニケーション能力を身に付けた人材の育成 ・安心安全な環境づくりと心身ともに健康な人材の育成 ・授業内容の改善と家庭学習の充実 ・キャリア教育・進路指導の充実と多様化する進路実現の実現 ・ボランティア・地域貢献活動等の取組 ・人権を尊重する精神を重んじ、互いを思いやり「いのち」を大切にすることと態度の育成 		

(4) 前年度の学校評価
ア 自己評価結果等

前年度 重点目標	<p>1 校訓の精神を重んじ、知・徳・体のバランスのとれた人材育成をめざす。</p> <p>2 安心安全で生徒が主体的に伸び伸びと心身共に鍛えられる学校づくりをめざす。</p> <p>3 地域社会の発展に貢献できる資質と態度を養い、より一層地域から信頼され必要とされる学校づくりをめざす。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<p>○PTA行事における保護者と学校の協力体制づくり</p> <p>○PTAの協力を得て、花壇美化活動</p>	<p>1 PTA・職員の役割を明確にし、連絡を行う。</p> <p>2 PTAの協力による花壇に花の苗を植える。</p>	<p>1 職員・保護者と事前に打ち合わせを行い、協力して行事を実施した。</p> <p>2 PTAと職員や生徒の協力により、きれいな花が咲き、環境整備をした。</p>
教務部	<p>○学習に集中できる環境をつくる</p> <p>○新教育課程に関する指導法の研究の推進</p> <p>○図書館の積極的な活用</p>	<p>1 教務部講話等、日頃から機会を捉えて学習意欲を喚起する。年間を通して、学習に集中できる雰囲気をつくりだす。また、教務カード、不要物品の指導を確実にし、授業規律の確立に努める。</p> <p>2 新教育課程に関するこれまでの指導について検証し、今後の具体的な指導方法を研究を実施する。</p> <p>3 「図書館だより」「新刊案内」等を積極的に発行する。</p>	<p>1 教務カード発行件数は昨年度より減少した。また、教務カード指導の対象者にも適切な指導を行うことにより学習意欲を喚起できた。</p> <p>2 新教育課程の効果の検証については、旧新教育課程による学習成果の比較資料をさらに整理する必要がある。</p> <p>3 ビブリオバトルの開催など、図書館の積極的な利用の手立てを工夫できた。</p>
生徒指導部	<p>○基本的な生活習慣の確立</p> <p>○集団における規律の遵守、安全・安心な学校生活</p> <p>○交通安全指導を含む公共の場におけるモラル・マナーの充実</p>	<p>1 8時35分教室入室を呼びかけ、40分ST開始(チャイム鳴り始め)を徹底する。</p> <p>2 学年団を中心に、頭髪・身だしなみ指導を継続的に行う。始業時・終業時のしっかりとした挨拶、入退室のマナー指導を徹底する。情報モラル向上を目指し、使用マナー指導を機会あるごとに行う。不審者情報を教室掲示・緊急連絡メール配信し、注意を喚起する。</p> <p>3 登校時の交通安全指導・交通安全指導LTの継続、自転車通学者への注意喚起を行う。</p>	<p>1 2月末現在の遅刻数229、昨年度の同時期と比べ増加している。(+51)精神健康度の低い生徒への対応が課題である。</p> <p>2 全教員の協力を得て、頭髪・服装指導を行うことができた。リスクレベル低であるがSNSへの書込み・画像掲載がなくならない。継続的な、情報モラル向上への注意喚起が必要である。</p> <p>3 各種交通マナー向上の取組の結果、交通事故報告が減少した。公共の場でのマナーについて苦情を受けることがあった。機会あるごとに注意喚起が必要である。</p>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> ○自主性を育てる学校行事運営 ○部活動を応援できる環境づくり ○委員会活動のより一層の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校行事に対し、生徒が主体的に活動できる環境をつくる。 2 部活動の広報を定期的に行い、学校全体で部活動を応援できる体制をつくる。 3 執行部による企画運営に早めに着手し、各種委員会と協力し、定期的な情報発信を通して、生徒への意識づけを行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒会執行部が中心となって学校行事の企画、運営をすることができた。早めに取り掛かることができたが、学校全体で十分な理解と協力を得るにはさらに改善が必要である。 2 部活動の大会予定を掲示することにより、大会の応援等を生徒に促すことができた。 3 各種委員会の活動運営が十分に機能しておらず、執行部と委員会との協力体制を作る必要がある。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ○歯科検診の結果を踏まえた生徒の健康管理 ○教室の環境衛生の充実 ○清掃活動の充実 ○特別支援教育への取組 	<ol style="list-style-type: none"> 1 例年、入学生のう歯が少ないので、入学年度からう歯を増やさない啓発活動に特に力を入れる。 2 常に換気を啓発し、環境衛生を整える。 3 ワックス掛けを行う場所を増やす。 4 学年と連携を図り、個別に支援が必要な生徒を把握する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 1・2年生向けに歯と口の健康教室を行った。次年度の結果を期待するとともに、対象者や教室の内容を工夫して継続したい。 2 教室天窓の開放を促すことができた。ストーブ使用の教室は換気が不足しがちなので、啓発を続けたい。 3 3年生HR教室にワックス掛けを行った。 4 特別支援教育委員会にかかる生徒が増えたことは、個別支援が必要な生徒を把握できたといえる。しかし、周知にとどまり、支援の仕方や内容に関して教員の理解が十分といえないところもみられる。今後理解が深まるよう努力したい。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○進路実現に必要な、知識・技能の習得とバランスのとれた生徒の育成を図る。 ○自ら問題解決し、意思決定のできる生徒の育成を図る。 ○進学後、適応・不適応の追跡調査を行い、適切な進学指導のあり方を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学年と連携を密に図り、ガイダンス等の充実を図る。また保護者への情報提供を踏まえ、具体的かつ有用な進路情報を提示する。 2 進路決定力を高めるため、キャリア教育の推進をいっそう充実させ、各学年の指導計画を策定する。 3 進学対応の充実と希望校合格のための指導の充実を図り、入れる学校から行きたい学校への転換を推進する。専門学校のアオ入試の実態把握と就職先の情報を把握し課題を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒・保護者の希望が一致せず、ミスマッチの要因となった。求人数の増加で、大企業・安定志向に流れ、本校と縁の深い事業所との関係に問題が生じた。基礎学力不足、コミュニケーション能力不足への対応とチャレンジ精神の育成が課題。 2 「進路の手引き」の活用と情報収集の方法を盛り込み、改訂を進める。 3 外部講師の拡充と説明会の充実を図り、一層の進学対応を検討する。
総合ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の一層の充実とビジネスコミュニケーション能力指導の確立および継続実施するための校内・校外の環境整備を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 インターンシップのさらなる充実を目指す。 2 インターンシップや関連科目を通し、ビジネスコミュニケーション能力の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 事前研究等に時間をかけることでインターンシップへの意識付けができ、事後指導として発表を入れることにより自分を振り返る機会ができた。 2 挨拶はしっかりできている。しかし、授業のさまざまな場面で考えさせたことが実際活かされていない生徒も見られる。今後も継続して指導していきたい。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
情報科	○情報科にふさわしい知識と技能 および情報モラルを身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> 1 国家試験・検定試験を積極的に受験する。 2 多くの作品作りを通し、情報技術を身に付けると同時に、コミュニケーション能力の向上を図る。 3 情報化社会の一員としての自覚を持たせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 国家資格合格に向け努力を重ねているが、合格者数は、前年度より減少してしまった。2年生の受験者も少なかったため、引き続き呼びかけをしていきたい。 2 作品作りを通してソフトウェア技術の向上およびコミュニケーション能力の向上も図ることができた。 3 授業を通してTPOをわきまえた行動を指導してきたが、理解不十分な生徒も見られた。今後も継続して指導をし、意識向上に努めたい。
1年学年会	○挨拶の励行 ○基本的生活習慣の確立 ○学校生活における目標の設定	<ol style="list-style-type: none"> 1 挨拶励行の徹底 2 身だしなみ指導・環境整備・入退室マナーなど基本的生活習慣を確立するよう指導する。 3 進路実現のため基礎学力の定着を図る。商業科目に適応させ検定資格の基本級を習得させるとともに、成績優秀者により高い意識付けを図る。 4 部活動の継続を奨励する。 5 大人としての判断を促す。 6 年間皆勤150名以上を目指す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新学期当初と比較すると挨拶への意識がやや減った。社会人のマナーとして、定着できるまでこまめに働きかける必要がある。 2 5分前集合や身だしなみなどの生活習慣については、ほとんどの生徒が守ることができている。 3 検定試験に向けての意識が高く、自主的に目標を定めている生徒が多い。成績不振の生徒も含めて、全生徒がより長期的な目標を持つように指導したい。 4 部活動を継続できない生徒については、個に応じて次の目標を考えさせることが課題である。 5 やってはいけないと注意されること以外は行って良いことと判断をしている生徒がおり、あらゆる場面で指導を重ねている。 6 持病を抱えている生徒も多く、欠席や遅刻が絶えない。年間皆勤者は1月末現在で187名である。今後も生徒の健康管理と精神的安定を日頃から注視する必要がある。
2年学年会	○豊かな人間性を培う ○向上心を持ち高い目標に向けて取り組む。	<ol style="list-style-type: none"> 1 心身を鍛え人格の陶冶に努めるとともに常に道徳心を磨く。 2 社会で活躍できる資質および技能を身に付けるためより高い目標を設定して努力する。 3 年間皆勤160名以上を目指す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行などの学校行事を通して、集団生活におけるマナーや人との接し方など、コミュニケーション能力の向上に取り組んだ。来年度の進路決定に向けて、更なる能力の向上を図りたい。 2 昨年と異なり、授業の中で検定試験に対応していないためか、上位級へ挑戦する姿勢が足りない。今後、資格取得に対する意識の向上および基礎学力の更なる定着を図るとともに、進路実現に向けての意識を高めていきたい。 3 年間皆勤者は192名であり、皆勤に対する意識は高いと思われる。

3 年 学 年 会	○進路実現 ○基本的生活習慣の確立、規範意識の内面化（凡事徹底）	1 生涯を見据えたキャリア教育の充実 2 進路実現に向けた指導・助言を行う。 3 進路実現後も人間としての豊かな自己の能力や個性を実現する。	1 1 年次より将来を見据えた進路ガイダンス等で進路指導をしてきた結果 1 学期で就職・進学が決まってきた。就職・進学ともほぼ希望通りの進路先結果を得ることができた。 2 具体的な進路先決定に当たりより細かな指導や助言ができた。特に個人への面接練習は複数回の実施で精度を高めることができた。 3 今後の人生においても、より高い目標を持ち自己実現を達成するために、研鑽を積むようないろいろな機会を通して指導した。
総合評価	<p>今年度は「さらなる凡事徹底」を掲げて、教育活動に取り組んできた。ほとんどの生徒が基本的生活習慣は確立しており、生活面でも、学習面でも日々努力をしている。ただ一部に基本的生活習慣確立への自覚が少ない生徒もあり、情報モラルを含めた倫理観や道徳意識の向上が課題である。また、特別支援教育委員会で対応を検討する生徒も増えている。よりきめ細かい指導を実践する必要がある。</p> <p>本年度は3年生が8クラスであり、就職希望者も増加しているため求人心配していたが、昨年よりも求人増のため順調に就職活動ができた。今後は生徒の基礎学力及び進学者の普通科目の学力強化に向けた工夫を進めるとともに、さまざまな場面で生徒のキャリア発達を促すキャリア教育をさらに実践することが課題である。</p> <p>本校の重点目標である「地域貢献活動」については、本年度も年間50回程度の活動を行ってきた。地域の方々も本校の活動を認識し、評価していただいております。県外を含め様々な所から本校へ声をかけていただいております。</p> <p>今後も保護者・地域・企業・行政等と連携し、より一層地域社会の発展に貢献できる人材を輩出する学校として教育活動を実践したい。</p>		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校における情報モラル教育について ・ 基本的生活習慣・授業規律について ・ ボランティア活動及び地域貢献活動について
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生が一方的に教える授業スタイルからグループワークなどのアクティブラーニングを取り入れた授業が多く見られるようになった。 ・ 基本的生活習慣はおおむね確立し、挨拶をはじめ地域での評判もよい。今後も欠席、遅刻、早退が少ない学校であるようにご指導いただきたい。 ・ 特別に支援が必要とする生徒や授業がわからない生徒も少なからずいる。さらにきめ細かい指導をお願いしたい。 ・ ボランティア活動及び地域貢献活動については、50回を越える回数など昨年度同様に取り組んでいただいた。地域からの東海商業高校に対する評価は高い。今後もさまざまな活動に生徒を参加させてほしい。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価アンケートなどの分析をさらに進め、授業改善に役立て、よりわかる授業を目指す。 ・ アクティブラーニングなど生徒が主体的に取り組める授業スタイルのさらなる実践に心がける。 ・ 保護者、地域、企業、行政等の協力をいただきながら、インターンシップ、ボランティア活動及び地域貢献活動にさらに取り組んでいく。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点目標を絞って取り組むような特化したプログラムが必要である。 ・ 生徒たちが教え合っている場面が授業で多くみられた。授業の雰囲気良かった。より一層、学力を向上させる「わかる授業」の取組をお願いしたい。 ・ HPの部活動の更新をもっと行ってほしい。想像以上に中学生はHPを見て進路選択を行っている。部活動をしている子どもたちの励みにもなる。 ・ 釜石の支援活動や松山商業との交流など、東海商業ならではの活動を今後も続けてほしい。
学校関係者評価委員の構成及び評価時期	<p>構 成 PTA代表（顧問、副会長2名）、地域代表</p> <p>評価時期 平成27年6月17日、平成28年3月10日</p>

(5) 経営管理上の問題点等

- ・ 平成25年度から普通教室棟および産振棟の耐震工事が予算化され、一昨年度、普通教室棟の整備が終わった。昨年度は産振棟が整備されることとなった。今年度は体育館の天井が整備される予定である。